

就農へイメージ膨らむ

農業体験会に首都圏から3人

一関市主催の「いちのせき農業チャレンジシモニター体験会」は2日、1泊2日の日程で始まっ

た。首都圏から男性3人が参加し、先輩移住者との懇談やピーマン栽培農家での収穫体験などを通

じて就農への理解を深めている。3日は収穫体験と先輩新規就農者との交流が予定されている。

好さん(31)のビニールハウスで収穫作業を体験した。

同体験会は、首都圏方面からの移住定住の促進や市内での新規就農者を増やす取り組みとして2013年度に初開催され、5年目。市農政課によると、過去には同体験会参加が同市で就農するきっかけになった事例もあるという。

現在16㍓でピーマンを生産、出荷している小野寺さんは、自身の経験や将来の生産目標などを披露した上で「農業で生計を立てることは素晴らしいと思う。皆さんが就農を決意するきっかけになってほしい」とアピールした。

小野寺さん(右)からピーマンの収穫方法について指導を受ける参加者

今年度は、東京都、茨城県から30代2人、40代1人が参加し、初日は川崎市民センターで先輩移住者と懇談した後、同市室根町矢越に移動。千葉県からUターンし、ピーマン栽培に取り組み始めて2年目になる小野寺隆

川崎地域に父親の実家があるという会社員千葉健司さん(35)は「こちらに来て生活するならば、農業や民宿などを考えている。(体験会を通じて)イメージを少しでも前に進めることができればと思っている」と話していた。

